

総合診療専門研修プログラム

地域医療を支える
医療人のためのプログラム

募集定員
6名

研修期間
3年



責任者からのメッセージ

県立延岡病院
地域医療科
部長 松田 俊太郎



地域医療・
総合診療医学講座
特別教授 伊東 芳郎



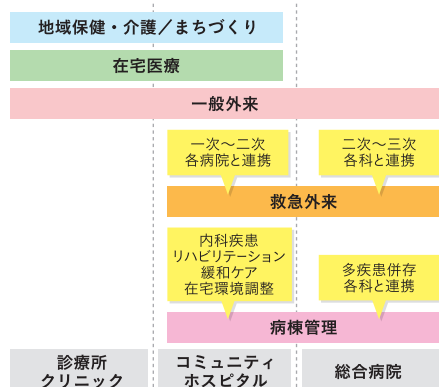
2040年、皆さんが40歳前後の頃。外来や入院のニーズが今と様変わりし、医療と介護の複合ニーズのある患者が増えると言われています。
地域の住民が求めているのは、信頼できる医師、何でも相談できる医師。そんな住民に求められる総合診療能力を身につけるひとつの手段として、総合診療専門医があります。今後需要が増える在宅医療も学ぶことができます。
向こう30年で日本で最も求められる医師・引く手あまたの総合診療を一緒に学んでみませんか。



プログラムの特徴

2021年度よりALL MIYAZAKI体制として宮崎県内の総合診療専門医を養成しています。2025年度から「基幹施設」を県立延岡病院に変更し、引き続き宮崎県が全面的にバックアップします。病院総合診療(ホスピタリスト)や家庭医療の両面を学ぶことができます。専攻医は県下のそれぞれの病院に配属されますが、Webを活用した月2回の自主勉強会、四季セミナーを開催し、教育コンテンツの充実も図っています。研修先についても、個々の事情に合わせてプログラム制・カリキュラム性も含めて柔軟に対応しています。例えば、地域枠生は宮崎東諸県医療圏以外のB、C地域のみで研修を組むことも可能です。プログラム修了後は、地域医療をはじめ、教育や研修の場で活躍しています。

ニーズに合わせて役割を果たす



連携施設名等

ALL MIYAZAKIプログラム

総合診療 18ヶ月 + 内科 6ヶ月 + 小児科 3ヶ月 + 救急科 3ヶ月 + 選択研修 6ヶ月

- 1 県立延岡病院(救急、総診、小児科)
 - 2 古賀総合病院(総診、内科)
 - 3 宮崎生協病院(総診、小児科)
 - 4 県立宮崎病院(内科、小児科、救急)
 - 5 都農町国民健康保険病院(総診、小児科)
 - 6 宮崎大学医学部附属病院(救急)
 - 7 都城市郡医師会病院(救急)
 - 8 高千穂町国民健康保険病院(総診、小児科、内科)
 - 9 県立日南病院(内科)
 - 10 小林市立病院(総診)
 - 11 美郷町国民健康保険西郷病院(総診)
 - 12 椎葉村国民健康保険病院(総診)
 - 13 西米良診療所(総診)
 - 14 ホームクリニックみまた(総診)
 - 15 緑・在宅クリニック(総診)
 - 16 西都児湯医療センター(総診)
- 他 福岡県2ヶ所

※なお、県外研修に際しては個別相談に応じます。

キャリアや希望に合わせて調整可能な3年間

取得可能な専門医資格および技能

- 総合診療専門医 ●新・家庭医療専門医 ●病院総合診療医

- 1 外来、救急、病棟、在宅という多様な診療の場において、全人的、包括的かつ継続的に医療を展開できる能力
- 2 患者中心の医療面接から、患者を取り巻く家族、地域社会、文化などを理解するコミュニケーション能力
- 3 地域のニーズに沿って、必要な医療技術を習得できる能力
- 4 限られた人材、医療資源を用いて、適切な医療をスタッフと協同で行うリーダーシップ能力

プログラム達成目標

患者の縦断的、横断的なマネジメントおよび、医療、介護、福祉との連携を実践することができ、研修修了時には地域包括ケアを実践する能力が習得できます。

- 日常に多く遭遇する疾病や傷害に対する初期対応能力を習得する
- 地域で対応が求められる各診療科のコモンディーズには、専門医へのコンサルトの見極めを含め対応できるようになる
- 地域で生活する患者の情報を、多職種で共有して解決するスキルを習得する
- 患者の診断や治療まで積極的に行い、かつ患者の生活背景を考えた退院後のマネジメントができるようになる
- より複雑な症例や患者の問題点を多職種連携で共有し、解決できるようになる

専門医取得までのローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総合診療Ⅱ						内 科					
	県立延岡病院						県立宮崎病院					
2年目	内 科						小 児			救 急		
	県立宮崎病院						県立宮崎病院			県立延岡病院		
3年目	総合診療Ⅱ						総合診療Ⅰ					
	古賀総合病院						都農町国民健康保険病院					

※地域枠生は宮崎東諸県医療圏以外のB、C地域で研修を組むことも可能です。

主要症例名と実績数

入院症例数5-10名程度、外来は半日10-20名前後(新患含む)、在宅患者数名を担当しながら、入院・外来・救急・在宅と多様な診療の場での診療を行います。
コモンディーズ、多疾患合併症例、下降期慢性疾患の対応、複雑困難事例、緩和ケア・終末期など多彩な症例を経験、総合診療科のコアスキルを研鑽しながら修得します。他にも小児・思春期から高齢者まで、リハビリテーションやメンタルヘルス、予防医学など多岐にわたる分野を、他の領域別専門医や多職種などと連携しながら経験できます。

プログラム紹介動画を作成しました。
詳しくはこちら



指導医からのメッセージ



早川 学

私は“最強の総合診療医”になることを目指しています！
私の中で“最強”とは、診療所・在宅医療～総合病院までどんな規模の医療機関でも働く能力を有し、医学生～初期研修医・専攻医のどんな学年にも適切な指導が可能で、学会発表や論文執筆もきちんと行い、その指導もできる医師をイメージしています。もちろん私自身もまだまだ“最強”への道のりは遠いのですが、我々はそのような医師になることが可能となる、素晴らしいプログラムを用意しています。
ぜひ一緒に“最強の総合診療医”を目指しませんか？ お待ちしています！

先輩からのメッセージ



小川 梨穂

「これはうちの専門じゃないよね」働いていたらよく耳にする言葉ですが、私が学生の時に目指していたのは目の前に困っている人がいたらその場で対応できる、考えられる、寄り添っていける、そういう医師像でした。総合診療医は数年前に新しくできたプログラムで、病院総合診療医、家庭医という2面性を持つプログラムでもあります。働き方もかなり融通が利き、みんな自分の生活を大事にしながらも熱い志を持って働く仲間がたくさんいます。興味がある方は是非一度ご飯に行きましょう！



米良 大雅

私が総合診療科を志したのは、学生時代に総合診療科の先生方の専門性に縛られない幅広い知識と経験、マネジメント力に圧倒されたからです。どんな患者さんでも診て、そして適切な医療を様々な人と協力しつつ提供できるのが総合診療科の強みです。私は、専攻医1年目に県立宮崎病院で多疾患併存症例や診断困難症例、集中治療管理が必要な重症症例など病棟総合診療医としての経験を積むことができました。2年目からは地域の病院で外来・在宅診療を学ぶ予定です。このように在宅、外来診療から集中治療室まで、幅広い活躍の場があり、どこでも役に立つ知識と技術を学べるプログラムです。私もまだまだ道半ばですが、一緒に総合診療を学びませんか？

お問い合わせ先

担 当：伊東 芳郎
(大学内)

T E L：0985-85-9809
F A X：0985-85-9805
e-mail：chiikiiryo@med.miyazaki-u.ac.jp

総合診療科 HP

<https://chiikiiryo-miyazaki.jp/>

